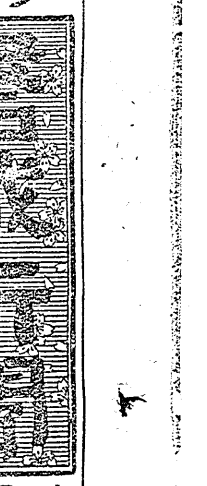
〔(一)〕　第三千八百九十三號　〔日曜日〕　昭和八年十二月三日　磐城新聞　〔郵便物認可　第二種郵便物第三千八百九十二號〕

夕刊



十二月二日發行
定價一ヶ月金五拾錢　郵税共金六拾錢
廣告　一段一行金九拾錢　一段一行同上
五號十二字詰一行金壹錢
編輯兼發行人　柏木行
發行所　磐城新聞社
磐城市平字紺屋町四〇番地
電話四六〇番

日曜祭日は休刊

炭鑛研究

發達史と現狀及將來

吉川生

（20）

明治三十年日本鐵道株式會社が、海岸線（現常磐線）を架設するやその燃料たる石炭は九州炭を門司、小倉、若松より積出し、（東京）より更に平驛まで運搬して使用して居つたが此れを常磐炭をもつて代用せしめたいことは常磐各坑の等しく望む所であつたが組織の名で通つて居つた常磐炭では汽車は動かぬものとの先入觀念に囚われて如何なる運動も奏効する事がなく全く涙をのんで拱手傍觀の體であつた。然るに當時の入山採炭株式會社々長白井遠平氏は之を甚だ遺憾に思ひ、幸ひ同坑が常磐炭中第一の優良炭を産出するために、非常なる自負心によつて當時同社主事運輸主任菌部政治氏に對し此の精神の貫徹せんことを傳へた。ために菌部氏は入山、高倉、豎坑より採炭せる三尺炭を精選し專用線運轉の機關車の燃料に提供して試焚を願ひしにその成績頗る佳良であつた。ために使用機關手の證明を添へてその試用を本社に願ひ出て漸くにして平水戸、田端の三機關庫に五噸車一車宛を寄贈するを得た。然るにその結果の如何は實に常磐炭の九州炭に對する運命の分岐點であつたゝめに、石炭業界では相當重大な事柄として刮目をしたが、その結果たるや、前に歸せんとするの狀態にな一年の事であつた。以後海岸線が官有となつて常磐線と改稱されても常磐線は常に磐炭を以て運轉することとなり、現在では更にその特質が認められて更に使用せられる範圍が擴張し前述の様に北は賣森の機關庫より南は沼津の機關庫に至る間使用され、年實に六十萬噸（昭和七年）の契約と見るに至つたのである。因に菌部政治氏は現萩原炭坑常務取締役である。今同氏の苦心なくても、話に乘つてあげ諚を伺ひ大いに感動する處ますよ。私だつて、どうせあつて茲に記して傳へその眞正の女ぢやあるまいし、勢に謝せんとするものである

試驗同樣九州炭に劣らず、充分鐵道の使用に供し得るとの評を得て同社の苦心も遂に達成せられるに至り直ちに鐵道納炭の契約をなす權利を獲た

然るに前試焚の石炭は最良の精選炭故に到底大量のたれば益々好評を博し遂に再び憂慮はおそふて來た茲に於て菌部氏は奮然として起ち、常磐炭も充分に大量供給可能と壯語し自ら選炭用のボタ打ちを手にし、選炭婦と共に背を汗にし全身細濕する迄に奮闘して第二坑川平竪坑の八尺炭の大塊を二寸大迄に碎き精選に精選し盛んに供給せしに何れも前同樣の成績にて九州炭に劣らぬカロリーを發し遂に

折にふれて

關　清治

○鉾杉の群立つ崖は落ち傾ぎま下に深く海そとどろく

○徒遠は潮鳴ちかし秤低く續く草家にうす日さしつつ

○斯ばかり吾を思ほすか老母は滿洲行を希ふわれを押しとどむ

○滿洲國遊覽隊員に加はりて行かむとせしも今は思ひ己む

○山鳩の聲をとめつつ分け入りし冬木林のひた寒きなり

○汽車待つと驛のストーブに寄りゐしが女狂者來て錢乞れといふ

潮聲視靜抄帳

十月集

新米　石城選文狂

新領の民懷きけり今年米

新米に御灯かゞやく祭かな　城月

秋晴の納屋の明るき今年米

新米や冷えまさりゆく厨の灯　枯萍

豊作をよろこぶ病母や今年米

新米の粥によろこぶ病める父　長貴門

まつ神に供へことほぐ今年米

灯の下につやゝかにあり今年米

新米の薩數千す日向かな　翠山

加船章

入船はみな新米の港かな　石城

幽さんの壺

原田小太郎

下

それから數ヶ月後、知人の金策になれない強談をやつた僕は、もつれあがつた感情をどうする事も出來ずれは赤ちやんが間もなく生れるのだつた。僕は故國を宗竹で蕎麥をうつてゐた來た

『やあ、いらつしやい』

『Sはくるかいね』

『ええ、四五日前に來たわ！』

僕はだん〳〵と氣の靜まるのをおぼえた！。そしてらんとした書棚に上に何かな花がふさわしかつた

『南京のキリスト』の話をし置物がほしくて仕方がなかつた。胡さんの店にはつた。ふと胡さんの壺を思ひ出して、早々また出掛けて行つた。胡さんは太い盃父の顏のうしろに、眞赤なチューリップを活けた壺はみかゝつたりするんですもの、誰だつて一ぺんは逃げやうとするぢやない』

その無順着の言葉にも今日は不思議に氣品をさへ感ずる程だつた、壺には黄色

『あゝ、誰が、惡くなんぞ……』

その後僕が無計畫な出奔から引きもどされてしよげ歸つた室に、氣むづかしい安の顏を見乍ら、しつかり胸を抱きしめ結けた

『おい……』

染香は、恐ろしい形相の逃れなければならぬ）

安はぐず〳〵に坐らせられながら云つた

『そうよ、だしぬけに船の中で姿を現して、人にいどみかゝつたりするんですもの、誰だつて一ぺんは逃げやうとするぢやない』

『よし〳〵、お前の口のうまいのは此處だな』

『まあ、お前さんは』

『うふゝゝ』

そんな譯で染香の態度の安は心をすつかり安らかにして更にふむほどにあほるほどに、たうとう染香のすゝめ上手に泥のやうに醉つてしまつた

『あゝうゝい、もうとこれ以上は一杯も呑めねね』

語尾は口の中でもぐ〳〵と消えて了ひ、何時か染香の膝を枕に高いびき

首尾はよし、そつと勇の頭をかたはらの空徳利に添へかへる、ニツコリ笑つた

『全くだ』

『それをムキになつて怒るなんてお前さんは少し眼が利かなすぎますよ』

『うふゝゝ』

『さあ、お呑みよ、嫌でもあらうけれど、私のお酌……さあ、注いであげるわ』

『おつとつと、これはかたじけない、こぼれるぜ』

『若いからよ』

『出がいゝといふ酒落か』

『おほゝゝゝゝ』

『うむ、かうしてお前が納得してくれて呑む酒は又一段と味がよいわい、さあお前も一杯のみなよ……』

『さう、それはすみませんわね。ちや輕く注いでよ、私あまりいけない性なんだ

さいます？今のあの元氣はから』

『いゝよ、今夜はうんとのむさ、こんな嬉しい晩はねに、夜明しで飲まふ』

『あ、どうもありがたう今度はお前さんよ』

とこへやつたのよ、せつかくの色男が臺なしぢやないか……』

染香は、咄嗟に態度を一變して安にしなだれかゝるやうに、その手をとつた

『うふゝゝゝ、そ、そう爽なくちや嘘だ』

『そうよ、先刻はまだお前さんの本心が知れなかつたからよ、惡く思はないで

染香

安の寢息をうかゞひ〳〵足音を盜んで逃れようとする

ガタツ！といふ物音、あやまつて鍋を足にかけたのだ。ギックリ！胸を詰まらせた染香、思はず安の顏を見詰めれば何にも知らぬ氣な高いびき

ヤマメリ純毛加工防縮防虫劑　許特

ナフタリン及除臭剤ノイラズ絶對虫ノ喰ハヌ毛シヤツ

上下各3圓

オ洗タクソノ他ニ絶對ヤヌ縮ヌ毛シヤツ

上下各2圓80錢

ヤルツ　平四〇四一電

耳、鼻、咽喉科
氣管食道科專門
平町南町（電一〇七番）
大和田醫院
大和田郡司
（自炊の便あり）

氣管、食道科、
耳鼻、咽喉科專門
平町南町（元眞木辯護士跡）
增田耳鼻咽喉科醫院
電話四八二番
（入院隨意）

恐ろしい疫痢の流行期!!
○毎年六月始めより十月と申します。
○死亡率統計百人中六十五人以上として居ります。
まづ豫防に經口免疫の北里研究所製造疫痢內服ワクチンを
○價格　幼兒一人分三十錢　大人一人分五十錢
（文獻進呈）
特約店　西村屋藥局
平二。電3

輪界の王者
富士自轉車
覇王號。宣傳號。
指定販賣所
フタバ商會
平。新川町。橋際

別仕立コート
今秋冬の尖端
自然美を機に上せて
織なせる卓越せる生
地を念入りに仕立ました
三井呉服店
電3384

平町田町（電話五三一番）
高久病院
醫學士　高久忠
新潟醫學士　赤羽清
染劑士　佐竹菊雄
內科　小兒科
外科　花柳病科
耳鼻咽喉科
レントゲン科

屋根材の大王（日の出）印便利瓦
耐久力優ニ二十ヶ年以上
壹坪貳上八十錢內外
日本建築紙工株式會社
磐城代理店
銘木ベニヤ板
天井板
建具材
內外木材
余織田材木商店
平町字紺屋町四〇番
電話四六〇番
建築材料ノ御用命ハ是非當店へ。

◎日本石油株式會社特約店
ライジングサン石油株式會社販賣特約店
關彰商店平支店
電話六一番
本店水戸線下館驛前
（電話五五番）
茨城縣土浦町出張
（電話六五三番）
支店
常磐線關本驛前
（電話八二四番）
所在地
常磐線四倉驛前
（電話四八番）
◇海上給油及油槽所
久慈濱、大津、平潟
營業種目
石油、揮發油、輕油、重油、モビール油、シン油、機械油類、防塵油、種水、植物油、コールタール、カーバイト、石炭、コークス、ストーブ

一第品質第
電話二六八番
平牛乳舍
平町。九品寺前

產婦人科
外科
藥局
院長　木村寅次郎
醫學博士　內木宗八
藥劑師　玄番彌一
平町新川町十九番地
入院隨意
病室完備
木村病院
電話一六四番

貸切ノ御用命ハ
イツデモ眞先（マツサキ）ニ
三九二（ミクニ）タクシーへ
（デンワ、ミクニ）

夜間診療
專門病院
內科
胃腸病科
花柳病科
性病科
皮膚科
松崎胃腸性病科醫院
（平町南町電一〇七番）

眼科專門
吉田眼科病院
平町紺屋町電六八番
院長　吉田安雄
醫學士　吉田久雄

前年同期と比較增差 實に二割四分五厘强
去月中の常磐炭發送統計

今春來の石炭增産は昨報の通りであるが去月二十一日以降三十日迄の常磐各山元發送高は

營業用—四、〇九八車五一、三七八噸、省用—一、七一六車二二、三六〇噸、合計—五、八一四車七三、七三八噸

で前年同期に比し營業用七九八車九、九〇一噸、省用三六三車二、三三九噸、合計一、一六一車一二、二四〇噸、一日平均一、二〇〇噸强の激增を示し

同全月分營業用一二、四七四車一五四、四三二噸、省用—四、九三一車六七、一六二噸、合計—一七、四〇五車二二一、五九四噸は前年同月分を突破する事實に營業用二千七百二十九車三萬四千二百九十一噸、省用千三十一車九千三百五十七車、合計三千七百六十車四萬三千六百四十八噸、即ち一日平均千四百五十五噸此率二割四分五厘と云ふ一大飛躍的增加振りを見せてゐる

磐炭綴新斜坑起工
昨一日鍬入式を擧ぐ

磐城炭鑛では昨一日午後二時から河合潔監督役を迎へ菅原所長、濱崎事務部長以下各課長幹部社員、從業員代表等百二十名參列、湯本町縣社々司佐波古神官により綴坑新斜坑口豫定地に於て開鑿起工鍬入式を行ひ直に着手する事になつたが來年中完成の見込であると

教員ボーナス六割
けふ平町關係者が懇談

平町學務係及三校長は今二日午前十一時から第二校に會合來年度收容兒童、學校施設器具機械、教員年末賞與六割給與（總額二千九百十三圓）等に就いて懇談した

磐中平商弓道試合

磐中、平商弓道部は今二日午後一時から平商弓場で練習試合を催したが兩軍のメンバー次の如し

△平商—（五年）上野榮、本多秋、志賀謙二（四）綿貫勇、飯塚清壽、山崎明、（三）根本健兒（二）鈴木金治

△磐中—（五年）小松計吾、高萩實、市井三郎、新妻守（四）赤津作衛、瀧上岩男（三）遠藤景久（二）高田悳一

○。。。內郷弓道大會 內郷弓道會主催弓道大會は明三日午前九時より同村武德殿に於て開催する

郡下女子總動員
來十五日第三方部會

郡下聯合女子青年團第三方部總集會は來る十五日午前十時から平館に開催されるが參集會員約四五百名の豫定で當日は津田團長の告辭、豫算其の他の議事、團員五六名の演說、縣社會教育主事佐藤庸男氏の講演、時局主題の映畫等がある

第二懇話會
卒業後の諸打合

第二校では來春卒業生中約百名の高女受驗志望者その他の爲來る十二日午後一時から父兄懇談會を開催受驗準備及職業選擇の件等を協議し津田校長及び正木磐女校長の講話がある筈

○。。。紹介者現況調查 擔當者の研究改革から最近愈々好成績をあげて居る平職業紹介所では求職後三年間の補導上給料、勤務時間其他參考資料を蒐めて居るが未解答の者が多く至急報告して欲しいと

○。。。平驛電信取扱數 平驛に於ける十一月分の公衆電信及電報取扱は左の如くである

（公衆）
發信二三三 着信十五
中繼一八三 計四三一

（專用）
發信一九五二 着信六八九 中繼三八 送信六四
計二七四三

平驛年末注意事項
全從業員を督勵

年末輸送の繁忙期を目睫に控へた平驛では事故防止に全力を擧げ左記諸項に特に注意を拂つてゐる

一、乘客荷主に對して親切叮嚀を旨とすること
一、規程達示を見落さぬこと
一、乘客の飛乘飛降りを警戒すること
一、荷物は絕對に拋げぬこと
一、過積に注意すること
一、激突激動せしめぬこと
一、火氣に特に注意すること
一、贈答品等の受託發送繼送引渡に特に急送の要ある貨物積載車の繼送を遲延させぬこと
一、盜難防止は特に注意すること

等である

年末年始贈答用煙草
平出張所で大宣傳

專賣局平出張所に於ける去る四月以降去月末迄八ヶ月間の總賣上高は三十八萬八千圓で舊盆季の九月中の最高五萬三千圓を初め昨年同期間に比し約四分の增加であるが盆と共に最大書き入れの正月が近づいたので例年贈答品として用ひられる左記製品を宣傳に『美しいセロファン包裝函入に』なるポスター千餘枚を管內各所に配付する事になつた

（敷島）六個入一、〇八錢 十個入一、八〇錢（みのり）六個入九〇錢、十個入一、五〇錢（ホープ）十個入一、五〇錢（エアシップ）同一、二〇錢、（チエリー）同一、〇〇錢（さつき）一、五〇グラム入八五錢（あやめ）同六五錢

煙草廣告

專賣局では今月より煙草に挿入するカードの民間廣告を引受くる事になつた、先づチエリー、ゴールデンバットから始め製作料とも左記大きさのもの一枚五毛で希望者は專賣局販賣課に申込まれ度いと

紙質—アートポスト、厚—〇、二四粍乃至〇、三〇粍、大—縱六七粍、横—四十粍

○。。。人命救助表彰 江名町四家龜吉は去る九月三十日午後六時頃同町坂本茂七方堀井戶に磐崎村本田唯雄が誤つて顚落せんとする處を救助し此程知事より金一封を添へ表彰された

平署に騎馬隊組織
橫山探題計畫を進む

特別警察隊の組織に次いで自動車オートバイを購入更に自轉車十二輛を取揃へてスピード署長の名を馳せて居る橫山平署長は更に過般來消防檢閲に乘馬を利用し今二日磐崎、明三日內郷各校に行はる檢閲にも馬上颯爽たる英姿を見せるが同署長は郡山時代に騎馬隊を組織し成績見るべきものあつた實例に鑑み平署へも同樣組織を目ろんで居る

上戶黨萬歲 一升以上割引デー

石城郡酒造組合評議員會は九日午後一時より同署樓上で開き過般清酒品評會で發會された縣産酒愛護石城部會に於ける實施事項として毎月一日一升以上の割引販賣其他に就て協議する

○。。。磐崎消防表彰 磐崎消防組では一昨年來湯の岳の山火警防に當つて居た關係から最近一件の山火事もなく今二日の秋季檢閲に際し植田營林署より表彰された

大に期待さるる少年消防の活躍
平署管內で現在三十六校

郡下の少年消防隊は最近發會式を擧げた赤井第二校及來十三日その運びとなつてゐる高久校等續々創設され今や平署管內の總數三十六校に上り大に將來の活躍を期待されてゐる

平局事務好績

昨報仙台遞信局監督課監察係丹治書記一行の監察は昨一日終了今二日朝會議室で非常に好成績の旨講評あつた

○。。。有田君哈爾賓行 湯本町出身有田行雄氏は此程外務省巡査を拜命哈爾賓總領事館勤務を命せられ來る五日午後八時二十五分東京驛發急行で出發すると

涌話區域擴張

平局では去る一日より左の如く通話區域擴張した

栃木縣吹上局（四十五錢）
千葉縣譽田局（六十五錢）

赤井村長決定

昨一日赤井村會に於て村長に猪狩忠人氏助役羽賀正雄氏が決定したと

平署管內 自動車々体檢查
來る七日から五日間 新規則で嚴重に執行

平署管內自動車々体定期檢査は來る七、九、十、十一、十二の五日間平町八幡小路で行はれるが受檢車數は約二百臺で最近自動車營業者ならびに運轉手の怠慢から雨天の際ドロ除けを附けぬもの附屬品の破損を修繕せず規定外のスピードを出して事故を起すものなどが相變らず多いので今回の檢査は新規則により嚴格に執行すると

自動車取締新規則通牒

既報—自動車取締規則の改正に伴ふ乘合、貸切の區分嚴守、消防組の出動其他火急の場合を除く外貨物車の人間運搬嚴禁等に關し平署では昨一日管內各營業者に通牒を發した

第一校遠足

第一校では來る十二日頃左の如く遠足を行ふ

尋一—物見ヶ岡 尋二—飯野村谷川瀨山 尋三—飯野村龍門寺 尋四—平窪村横山臺 尋五—內郷村白水阿彌陀堂 尋六—湯本町溫泉神社 高一、二—赤井村小下川發電所

○。。。福利增進座談會 湯本町愛町會では今二日午後六時より公會堂に於て福利增進に關して座談會を開いた

○。。。磐炭力士遠征 磐炭相撲部一行二十五名は明三日の公休をトして日立へ遠征試合すると

○。。。第一左側通行宣傳 第一校高等科生より成る少年赤十字團員は來る五日町內各要所に左側通行宣傳を行ふ

夜逃げと早合點
慌てた百五十兩の債權者 催促が過ぎて表沙汰

平町南町吉田勝義（三七）は豫て百五十圓を融通して置いた同町三丁目三一藤彥事大金カツ（五四）が二三日前營業用備品の一部を古物商に賣却した事をきゝ夜逃の準備と早合點し昨一日午後五時頃同家に暴れ込み蓄音機、柱時計其他を强奪したので今二日平署に告訴さる

文字通りの鼠賊
三年越しの白米泥檢擧

山形縣南村山郡上山町生れ磐崎村下湯長谷木田茂多方雇人鈴木富治（四六）は一昨年一月頃同村木田忠三郎に雇はれ中同家土藏より數回に亘り白米二俵を竊取した外左の如く同村內で米專門の竊盜を働き昨一日同村駐在長山巡査に逮捕された

△同年十月大字桑原大井川和雄方で白米二斗△昨年九月十二日夜雜貨商高木秀夫方より玄白米各一俵△同月十六日夜白米一俵△十一月八日向島農岡部千之助方より糯米、籾各一俵

○。。。唯野稅務署長講演 平靑年團修養會は來る五日午後六時よりマルトモホールで開き唯野稅務署長の財政講話がある

○。。。高木電信兵除隊 滿洲駐剳中の東京中野電信隊平町四丁目會田時計店方高木淸一君は明三日午後四時三十八分着歸鄕する

○。。。第二鄕土祭 第二校の鄕土祭は準備中であつたが來る二十三日擧行する事に確定した

○。。。第一校學力考查 第一校では來る十五日から三日間校內の學力調查を第一日算術、第二日讀方、第三日雜間の日割で行ふ

○。。。モヒ患者に惠む 長野縣更級郡靑木島村一二四五生れ山口保雄（二二）はモヒ患者の爲家人に嫌はれて去る九月家出、昨一日町役場で藥料を惠み旅立たせた

○。。。關內町議寄附 平町會議員關內正一氏は日本赤十字社福島支部事業費として二百圓を寄附此程褒狀を贈られた

猫婆額約二千圓
二本松電の集金人起訴

好間村上好間二本松電氣散宿所居住仙臺市新河原町生れ電氣機具販賣山崎辰雄（三五）は二本松電氣會社好間散宿所集金係として雇はれ中昭和四年五月頃から去る六月頃迄數百回に亘り同村長谷川ヤス外二百數十名より集金した電燈料電力料扇風器販賣代金總計千九百六圓餘を橫領費消した業務上橫領事件は三堀檢事取調中の所愈々起訴平支部の豫審に附された

○。。。磐中敎諭送別會 磐中敎諭今惣吉氏は此程千葉縣木更津中學校に榮轉、同河村敎諭は島根縣濱田步兵二十一聯隊に入營近日何れも出發するが今夕六時からマルトモホールに於て同校國漢科主催で送別會が催される

○。。。杜氏總集會 平稅務署管內三十六酒造業家杜氏總集會は來る九日同署樓上で開き製品の改善及唯野署長の訓話がある

○。。。夏井農産品評會 夏井村農會主催農産物品評會は昨今兩日同村小學校に開催、出陳約五百點で今二日午後からの審査を行つた

○。。。米穀共同販賣 平町地方の米穀共同販賣は今二日午後一時より驛前農業倉庫で行つたが出荷二十俵であつたと

愛讀者懸賞抽籤

十、十一、十二月三ヶ月分の本紙購讀料領收書と引替ゑに抽籤券一枚を呈上。以上三ヶ月分の前納には新舊讀者を問はず抽籤券即時呈上

一、抽籤 明春一月四日
一、發表 同六日本紙上

テーブルゲーム 一面宛

賞品

一等特大形（一名） 二等大形（二名） 三等中形（三名）

○。。。鼠賊 內郷村大字高坂字立野根本弘（三二）は去月廿三日午前一時頃磐炭勞務課宿直室に忍び入り岩崎惣太郎勝沼國吉兩氏のオーバー價格二十圓を竊取入質昨一日平署に檢擧さる

○。。。橫領 平町五丁目一四ブリキ職田中一郎（二五）は去る四月頃白銀町松崎屋旅館方より賴まれて造つたガラス製金魚鉢代金一圓五十錢を受取り乍ら他へ賣却此程橫領罪で平署に告訴さる

○。略式。 平窪村大字中平窪字横枕一六自轉車修繕販賣業忠勝事加藤忠一（三二）は去月二日同村地內山門で剣拔銃身の空氣銃を以て鳩一羽を捕獲、又十月二日無免許で自宅に於て同村加藤某より中古自轉車二臺を轉賣の目的で買入れ一臺を十一日四倉町渡邊喜一に賣渡し今二日中島判事より略式罰金四十圓を言渡された

○。。。ヂフ 平町田町佐藤ミツ子（二五）は昨一日ヂフテリアと決定加療中

○。。。宿料 耶麻郡翁島町七〇種物商鈴木永吉（三六）は去る八月一日より五日間平町七丁目熱心湯事件スセ方に投宿宿料四圓を踏倒して逃走昨一日平署に檢擧さる

○。。。水桶盜まる 磐崎村長倉坑運輸部前共同飲用器に使用して居た深さ三尺の水桶（價格十圓）が何者かに盜取されて居るを昨一日午後七時頃同坑夫が發見今二日平署に屆け出た

長唄 花柳流舞踊
平町田町七二 花柳流舞踊研究所
花柳德三郎 杵屋十茂代
御稽古をおすゝめ致します

職業紹介欄

△求人
△雜夫—三十歲以下委細面談（平町某）△豆腐賣子—三十五歲以下（平町某）△小店員—十七歲給料面談（江名町某）
△求職
△給仕—十七歲中三修（平町某）
△外交員—十八歲商一修面談（磐崎某）

平町慶弔錄

△婚姻 四丁目二一半谷壽長（三九）茨城縣東茨城郡磯濱町一九〇〇九細野谷すて（三七）

諸判定廳舗 東京市本鄕區湯島四丁目五番地 高島易斷總本部 神[illegible]館

舊十月十六日 日曜 癸卯 先勝 定 昴宿 新十二月三日

▲一白の人 思慮分別を廻らして努力すれば成功疑なし▲二黑の人 順序正しく物事を運べば失敗をも取返す日▲三碧の人 輕々しき態度を改め自重すれば平安を保つ▲四綠の人 頼むは己が一心と奮勵怠らざれば功果あり▲五黃の人 人の言に惑はされて損失を生ずることあり▲六白の人 煩悶苦勞ありて獨りあう惱する不愉快なる日▲七赤の人 後から〳〵と煩勞の重り來る日焦る可らず▲八白の人 目上と隔意を生じ易き日兎角平和が勝なり▲九紫の人 人々の援助加はりて諸事成就する幸運の日

舊十月十七日 月曜 甲辰 友引 執 畢宿 新十一月四日

▲一白の人 信用を破壞せざる樣和合專一に身を修めよ▲二黑の人 四圍の迫害多く自由ならざる日又病厄注意▲三碧の人 目上の信賴を失ひ煩悶に終始せんとする日▲四綠の人 運氣逆轉して百事思ふまゝならぬ日爭注意▲五黃の人 進展力薄弱にして充分ならざれども焦るな▲六白の人 運氣旺にして堅實に進めば名利行はるゝ日▲七赤の人 活氣橫いつの日にして進むに大吉起業尤宜し▲八白の人 天日の暗うんに閉ぢらるゝ如し日ざしを待べし▲九紫の人 希望計畫の達成せらるゝ大吉日耐忍努力 吉

毛糸
今年度新色全部入荷致しました。
相變らず御引立の程を。
（色見本帳進呈）
合名會社 ハシモトヤ糸店
平町田町 電話十四番

耳鼻咽喉科專門
平町田町七〇番地
山內醫院
醫學士 山內亨吉
電話 六九一番
入院隨意 病室完備

吸入用酸素 純度99%
度量衡
モノサシ マス ハカリ
[illegible]
体温器 寒暖計
◎秤ノ取次・緒・垂・糸・修繕・掛替致シマス
關內藥局
電話四〇番